

広島民報

2020年 2月23日 第2557号 月3回刊 日曜日発行
発行所 広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11/電話(082)228-4046
(昭和41年2月19日第三種郵便物認可)
1ヵ月 240円(送料126円)/1部 80円
郵便振替 01330-2-34778
© 広島民報社 2020年

被爆建物・旧陸軍被服支廠 全棟保存へ取り組みを強化

広島市南区に残る被爆建物「旧陸軍被服支廠(ししよ)」の4棟のうち1棟が国、3棟が広島県の所有ですが、県が進めようとした「2棟解体、1棟の外観保存」の着手は先送りされることになりました。県は、1棟所有の国と地元広島市の3者で話し合った末の結

新春対談 野党連合政権へ 共産党を大きく(下) 野党共闘と共産党

岡山大学名誉教授 小松泰信さん



野党連合政権へ共産党を大きく(下)野党共闘と共産党

小松 安倍政権、その基本的にはDNAが同じ自民党政権は打倒していくべきだと強く思っています。

仁比 原発再稼働、消費税増税、社会保障削減、格差拡大、戦争する国づくり...いまの日本社会・暮らしの現状は危機的ですよ。この状況を打開するためには、いまの選挙制度

小松 衆議院選挙と2回の参議院選挙、そして、高知県でマツケンさんが奮闘したような一連の県知事選を通じて、野党共闘が発展させることが、求められています。

仁比 10年前、名護市長選挙で稲嶺ススムさんを当選させて「オール沖縄」の源流が

小松 13項目の中に農業問題が入ってなかったですね。残念です。先日、滋賀での集会に嘉田由紀子さん(元滋賀県知事、参議院議員)、山下よしき共産党副委員長と参加しまし

小松 ざい農業問題を共通政策に入れてほしいです。安倍自公政権に代わる野党連合政権構想を示してほしいですね。そのためには、共産党が伸びなければならぬと思うんです。

仁比 野党共闘を本当の共闘にするためには、共産党が躍進しなければいけない、共産党が躍進してこそ、野党の本気の共闘になるんだという関係ですよ。簡単なことではないですが...

小松 「赤旗」日曜版でも書きましたが、共産党は「岩盤倫理」を持っています。余りにもまじめすぎて、堅いよねって話。でもね「岩盤倫理」が際立つという事は、周りがいかに倫理を喪失しているかということなんです。今の時代、日本共産党は例えばある面では孤独になるってこともあるかもしれないけど、やっぱり譲ってはいけません。

仁比 小松さんの言う「岩盤倫理」。今の安倍政治に変わる新しい希望を作るうえでの共産党の旗印ですよ。共産党だからこそ、対米従属の大企業支配に對して正面から対決する。要求で一致し団結してこそ社会は変えられるんだという統一戦線の要にもなることですからね。(2面へ続く)

論だとして、2棟解体の原案自体は維持するようです。日本共産党や平和団体などが、解体に反対する取り組みを強めています。

中国財務局へ 大平氏ら申し入れ

日本共産党の大平よしの前衆議院議員・中国ブロック比例候補は

5日、同党の辻つねお県議と広島市議団(5人)が連名して全棟保存・活用を求める申し入れ書を中国財務局に提出しました。中原ひろみ、近松さと子の両市議が同席しました。

大平氏は「被爆75年の節目の年であり、財政支援も含めて、国が積極的に保存へ尽力してほしい」と要望。吉井正幸・特別固有財産管理官は「県や市が真摯

申し入れる(右から)中原、大平、近松の各氏=5日、中国財務局



講演する三浦名誉教授=2日、広島市中区

保全を願う懇談会 緊急講演会を開催

市民団体「旧被服支廠の保全を願う懇談会」(中西徹代表は2日、中区の広島平和記念資料館で緊急講演会を開き、約150人が参加しました。史跡原爆ドーム保存技術指導委員会委員長三浦正幸広島大学名誉教授(日本建築史)が講演しました。

三浦氏は、ほぼ同時に作られた原爆ドームや東京駅、下関市役所第一別館などと比較しながら「日本の鉄筋コンクリート建築初期に高い技術を用いた極めて貴重な造りであり、レンガの外観だけを残すのでは全く意味がない」「多くの被爆者が収容され、苦しみ亡くなっていた場所であり、横たわっていた床と最期に見た天井がそのまま残っている他ない場所である」と指摘。保存には1棟あたり約30億円かかるという県の姿勢に對して「それ以上の価値を持つものであり、役に立たないし金がかかるから解体する」などと言った。態度とは言えない」と批判し、全棟を耐震保存して世界遺産に追加登録すべきだと強調しました。(ま)

地下水

東日本大震災に伴う福島第一原発事故発生から間もなく9年のフクシマには、記憶されるべき人が何人もいます。その1人が、2018年6月に病没した前浪江町長の馬場有(たもつ、享年69)。事故発生や放出された放射性雲が流れる方向についての情報が東電や国・県から伝えられなかったことで助けられた命を見殺しにした痛恨の体験から、難題に身を削って対応した人です。結果として多くの人を放射線量の極めて高い地域に避難させたため、同町は12年8月、被爆者健康手帳がモデルの「放射線健康管理手帳」を住民全てに交付しました。それは万が一、健康影響があった場合に医療費の自己負担分を免除し、賠償請求の際の証拠を残すためでした。◆原発ができれば町が潤うと考えていた馬場ですが、あの苛酷な実体験を経てからは国や東電の責任を町民の先頭に立って厳しく追及。12年8月には広島で被爆者や松井一実市長と懇談し、協力を要請しました。ヒロシマには、フクシマに寄り添い続ける責任があります。(ま)